ひだまり
2017 Vol. 8
秋田大学教育文化学部 後援会情報誌
平成29年3月1日　第8号

愛称「ひだまり」は，教育文化学部が「秋田の文化の温かさ」の集まる日溜まりのような場所となり，皆様にその暖かさが届きますようにという願いを込めて名付けられました。

もくじ

教育実習は進化し続けています　1
後援会活動報告(後援会長)，就職・進学が決まった学生からメッセージ　2・3
教育文化学部就職活動支援(キャリア委員長)，就職内定状況　4
就職情報室から／一枚の写真から　5
教員採用試験に向けた取り組みについて／学部長あいさつ／大学学部関係行事予定　6

教育実習は進化し続けています

教育実習は学部における教員養成の中心と言ってもいいでしょう。昔の教育実習は「完成実習」と言われるように4年生の時に4週間行われていました。20年ほど前からは3年生で4週間，附属学校又は公立学校で行っていましたが，10年ほど前からは2年生(学校教育課程の場合)で附属学校3週間，3年生で公立学校2週間の計5週間の実習を行うようになり，4年ほど前からは2年生2週間，3年生3週間となっています。もう一つ別の校種の免許を取る場合には4年生で附属学校において2週間の実習を行います。さらに，介護等体験で2年生の時に附属特別支援学校での実習も入ってきます。3年前からは1年生の時の児童館等での実習(「教育実地研究Ⅰ」)が必修となりました。希望者は，教育実地研究ⅡⅢⅣ(うち1科目は選択必修です)で，少年自然の家や学校でのボランティアを行うことができます。つまり，入学から卒業まで，継続的に学校現場での実習が行われるようになっているのです。大学の中での授業と，学校での実習が並行して進むことで，学生は常に実習を念頭に置きながら授業に取り組むことになります。

教育実習の実施にあたっては事前指導，事後指導も行われますので，十分な準備を行って実習に臨みます。実習では，子どもたちとだけではなく，実習指導の先生方とのコミュニケーションの力が問われます。また，普段の学生生活以上に，「教師」としての姿勢が問われますので，時間厳守，身だしなみ，言葉遣い，立ち居振る舞いなど，「勤務態度」を正すことが必要です。研究授業を行って，アドバイスをもらうことも，とても緊張するものです。失敗することもあり，自分は教師に向いていないと思うこともあるのですが，失敗から学ぶことも多くあり，あきらめない心を学ぶことができます。実習で子どもたちと接することでさらに教師への希望を高める学生も多くいます。最近の学生・若者は打たれ弱くなったとも言われます。教育実習を糧にして，大きく人間として成長してほしいと願っています。

教育実習実施委員長　佐藤　修司

学生の就職活動の充実に向けて

教育文化学部後援会　会長　木村　守人

学園町内には時折温かな日差しが降り注ぎ，春の息吹が感じられる季節となりました。後援会会員及び教職員の皆様におかれましては，日頃から当会へのご理解とご支援を賜り，誠にありがとうございました。

卒業生は，社会人として大きな夢を抱き，飛躍に胸を踊らせていることと思います。本学部の設置目的である「教育の活性化に貢献する教員」や「地域の活性化に貢献する人材」となることを心より期待しています。

さて，本学部及び後援会では，学生の就職活動の充実に向けて，主に次の３つの取組をしてきました。１つ目は，就職情報室の運用です。一般企業就職を含めて，いつでも学生が気軽に相談できる体制を構築してきました。２つ目は，教員採用試験支援講座「スタージュ」の開設です。教職員の皆様からは個人面接や集団討論，小論文，模擬授業など特色ある指導をいただきました。年間の定期的な「スタージュ」以外にも「スプリングキャンプ，オータムキャンプ」などの特別企画も実施し，学生同士の団結力を高めました。３つ目は，公務員試験対策講座や相談会など，年間を通じて開催し，就職についての細やかな支援を行ってきました。

平成28年度の理事会･総代会の様子

一方，会員の皆様を対象とした事業といたしましては，今年度６月12日に理事会及び総代会を開催し，活動報告等を行いました。また12月初旬までには各地区会を開催し，就職状況などを報告しました。今年度は企業関係の就職内定率が上昇し，教職と公務員関係は昨年同様の就職内定率であると聞いて，多様な取組の成果の表れであると感謝しております。今後も学生一人一人の就職活動が一層充実するよう，後援会として支援に努めてまいりたいと思います。

就職･進学が決まった学生からメッセージ

平成28年12月３日(土)に開催した中央地区会にて，４年生就職活動･大学院合格体験発表を行いました。参加された方からの反響も良く，今回改めて本誌に掲載します。保護者の方のみならず，学生にとっても参考になる内容です。

『教員採用試験を通して』

教育文化学部　学校教育課程
教科教育実践選修　鈴木　優花

私は，今回就職活動をするにあたって，教職という道を選びました。

教員採用試験を受けるにあたっては，秋田県の小学校を受験することにしました。小学校は，子どもたちにとって新たな出会いがたくさんある場所です。６年間のなかで，たくさんのことを考え，学んでいく子どもたちの成長を側で支えていきたいと考えました。また，私自身，幼い頃から地域のお祭りや行事に参加し，秋田県の人々の温かさや，地域のつながりを感じて育ってきました。このような絆を生かして，ふるさとに愛着をもち，秋田の未来を担う子どもを育てていきたいと考えました。

本格的に教員採用試験に向けての勉強を始めたのは，スタージュや自主ゼミがはじまった３年生の秋頃です。同じように教員を志す仲間が集まって，発表を聞いたり，話し合ったりすることで，具体的な教育についての考えを深めることができました。冬になると，筆記試験に向けての勉強を本格的に始めました。机に向かう時間が長くなり，ストレスのたまる毎日でした。そんなときに支えになったのは，国語科研究室の友人たちです。日々一緒に勉強し，励まし合いながら共に努力する仲間がいたからこそ，合格できたのだと思います。

４年生になってからは，毎日のように就職情報室に通い，過去問や先輩方が残してくださった面接の内容をコピーして対策を進めました。情報室のお二人は，いつも暖かく迎え入れてくださり，私にとって，心安らぐ場所でもありました。また，大学の先生方にも，たいへんお世話になりました。経験豊富な先生方のアドバイスは，初めてのことばかりで右も左もわからないわたしにとって，参考になることばかりでした。面接･討論練習や模擬授業対策では，細かいところまで丁寧にご指導いただき，本当に感謝しています。

今回の合格は，教員としてのスタートでもあります。四月から出会う子どもたちが，ふるさとに誇りをもち，将来社会で輝くことができるように，努めていきます。

公務員試験を受験して

教育文化学部　地域科学課程
政策科学選修　大越　康太

私はこのたび，秋田県職員に内定しました。就職活動を行うにあたり様々なことを考え，迷った末に公務員試験の受験を決めました。大学で行政について学んだことや公務員の職務に興味をもったことがそのきっかけでした。

まず公務員試験を受験するにあたって，3年生の6月から大学生協が行っている公務員講座を受講することにしました。一次試験のみならず二次試験の対策も行っていただけるほか，実際に働いているOBの方のお話しも聞くことができ，非常に効果的でした。特に一次試験対策については，秋田大学で講師の方の生講義を受けることができることが大きなメリットだと感じました。また，所属課程の先生方や就職情報室の方々からも様々な支援をしていただき，非常に心強かったです。こうした方々の支えがあり，今回内定をいただくことができたのだと思います。

公務員試験について，一次試験の勉強が非常に大変だというイメージを抱いている方も多いと思います。たしかに大変ですが，最後まであきらめず，地道に取り組むことが重要だと思います。実際の試験では，自分がこれまでに積み重ねてきた勉強の分だけ，結果となって現れてくるのだと痛感しました。また二次試験については，秋田大学では先生方をはじめ，多くの方々から面接カードの添削や面接練習などの支援をしていただくことができます。こうした環境のもとですから，公務員試験については特に，自分自身の努力次第で結果が決まっていくのではないかと思います。

私は秋田大学で過ごした4年間，友人や家族，先生方など，多くの方々に支えていただきました。良い時も悪い時もありましたが，どんなときも同じように接してくれた方々のおかげで，今の自分があります。春からは秋田県職員として，秋田県の行政に関わる仕事に携わります。生まれ育ったこの秋田県をより良いものにしていくことが恩返しになると信じ，一生懸命職務に取り組んでいきます。

これから就職活動をする方へ

教育文化学部　国際言語文化課程
欧米文化選修　齋藤　明日美

就職活動をする上で，私が大切だと思ったことを二点お話します。まずは，「自分について知る」ことです。ここが一番大事かもしれません。私は，普段の生活の中で，自分を深く振り返る機会はあまりありませんでした。しかし，長所や短所だけでなく，自分はどんな人生を歩んできたのか。必死に打ち込んだこと，成功体験や挫折経験。それを丁寧に振り返ることで，自分は何がしたいか，どんな働き方が合っているのか，いわゆる「就活の軸」を見つける手助けになりました。その上で，カフェでのアルバイトで得た細やかな気配りができることや，ダンスサークルのジャンルリーダーとして活動したことをアピールポイントとして，エントリーシートや面接で活用していました。また，自分で考えるだけではなく「他者から見た自分」を周りの人に訊いてみるのも効果的です。自分では気づかなかった強みを教えてもらって，自信につながりました。また，自己分析，エントリーシートの書き方，面接に関しての書籍も読んで参考にしていました。

二点目は，積極的にいろいろなイベントへ足を運ぶことです。３月の解禁前にもイベントはたくさんありますし，解禁後はスケジュール管理が大変なほど説明会やセミナーが開かれます。しかし，そこで面倒くさがらずにどんどん参加してほしいです。なぜなら，こんなにさまざまな場所で，さまざまな職種の方や他大学の学生と話ができる機会はこの時期しかないからです。就職活動はつらいことも多かったのですが，同時に楽しかったとも思います。「こういう人たちと働きたい」と思えるような，それぞれの思いや情熱をもって働いている方々と出会えたことは，とても貴重な体験でした。これから就職活動をする方は，出会いを大切にして，形式的な説明を聞くだけでなく，自分からたくさん質問して，たくさん会話をしてみてください。そして諦めずに，納得するまで就職活動を続けることが大切だと思います。

名簿登載猶予制度の活用

教育文化学部　人間環境課程
自然環境選修　原澤　芳春

私は地元である茨城県で名簿登載猶予制度を活用して，筑波大学大学院修士課程教育研究科への進学を決めました。この制度を簡単に説明すると，教員採用試験において内定をいただいた者が大学院に進学をする場合，専修免許状の取得を条件に名簿への登載を猶予していただける（内定を二年間とっておいてもらえる）制度です。

私がこの制度を活用した理由は，大学院の二年間を勉学と研究に尽くすことができると考えたからです。筑波大学は，東京教育大学から続く歴史と伝統があり，教育研究科では教育経営や生徒指導について深く学ぶことができるため進学を決めました。また，私は生徒指導に関する研究がしたいと考えおり，その研究ができることも進路決定の要因の一つです。

私は教員採用試験と大学院の試験の対策を並行して取り組んできました。教員採用試験対策の方を重視していたため，大学院の対策はコツコツ進めてきました。まず三年生の秋頃に説明会に参加して，カリキュラムや大学の雰囲気を知ることができました。その際に過去問と資料を手に入れることができました。次は四年生の春に希望する指導教員に連絡を取り，研究室訪問を行いました。その際に自分の研究計画や学生生活についてなど，様々な話をすることができました。試験勉強を始めたのは教員採用試験が終了した四年生の十月からです。試験まで一か月だったため，質を重視しました。まず過去問を分析して，試験問題を作成している教員を予想し，その教員が担当している授業のレジュメや，出版している書籍を用いて勉強を進めました。基本問題は教員採用試験と似ていたので，ほとんど対策はしませんでした。

教員採用試験，部活動，アルバイト，卒業研究などもあり，心が折れそうなときもありましたが，友人，家族，先生，就職情報室など，周囲のサポートのおかげであきらめずに続けることができました。大学院の二年間を有意義に使って，教員として活躍していけるように全力で邁進していきたいと思います。

教育文化学部の就職支援活動について

キャリア委員長　林　良雄

本学部の就職支援は，教員，公務員，企業と分けて活動しております。それぞれについてご説明いたします。

教員採用試験については，通常の授業で学ぶ内容を十分身につけていることが最低限必要ですが，それ以上に，教師としてやっていけるかが面接や模擬授業等で確かめられます。本学部ではこれに対応するために，授業外でスタージュや教職自主ゼミという，学生が自主的に参加する講座を週二回程度行っております。

平成28年度の教員採用試験の結果ですが，昨年度とほぼ同等の成果が上がっています。秋田県の採用試験についても同じですが，採用数は多くはなく，教壇に立つことを優先する学生には他県との併願も勧めております。併願する他県で一番多いのが千葉県です。その理由は，多くの先輩がいることと千葉チャレンジという，推薦枠ながら受験者の出身又は大学所在の都道府県を第一希望とし，千葉で合格しても地元を優先させてもよいという制度があることなど，恵まれた環境・制度によるものです。

先ごろ文科省が発表した平成28年3月卒業生の教員就職率（正規＋非常勤）では本学部過去最高の71.3%となっており，日ごろの支援活動が実っていることが実感できます。

公務員についてもほぼ昨年度並みとなっております。このところ，公務員志望者がかなり増加しており，支援の強化を進めております。公務員志望の学生の多くは公務員に関する知識がない上に，公務員になり何をしたいのかもわからないのが実情です。まずはその部分について，２年生でしっかり考えさせることが必要であるという観点，および３年生までに何を勉強すべきか，という観点から指導を続ける方針です。

企業への就職についてです。就職指導については本部の就職推進課が中心となります。本学部では，それに加えて学部学生を対象とした少人数制で，エントリーシートの書き方指導などより実践的な支援や平時の就職活動における相談など支援を行っております。

企業への就職状況は，就職環境の改善を受けて良好で平成29年度についても同様の傾向と思われます。採用活動のスケジュールについては変更なく，３月広報解禁，６月採用活動解禁となります。しかし，3月までには自己分析，企業・業界研究が必要となっています。我々としては3年生になった段階から就職セミナーへの参加呼びかけなど早期の活動を促していく方針です。

最後に，気がかりな点について述べておきます。最近の学生は，何か問題があっても自分一人で，あるいはネットの情報だけで解決をしようとする傾向があるようです。そして，誰にも相談せずに，結局訳が分からなくなり，そこで止まってしまうのです。そこで活用していただきたいのが就職情報室です。

就職情報室は後援会のご支援で運営している本学部独自の相談室です。各就職について学生ごとにきめ細かい対応をしております。少し勇気を出して，就職情報室に入っていただければ，職員が丁寧に対応して，様々な情報や知恵を出してくれるので，きっと問題解決の糸口がつかめると思います。勿論，順調に進んでいる方でも，職員とお話しすることで，気分転換もできます。是非とも，ご子息・ご息女に就職情報室の活用を勧めてください。必ず，より良い就職へつながると思います。

就職内定状況

２月末データ

学部・課程等名		卒業予定者数	進学予定者数	求職者数			就職内定者数			就職内定率			その他
				合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	
教育文化学部	学校教育課程	98	7	88	32	56	59	18	41	67.0	56.3	73.2	3
	地域科学課程	62	0	62	29	33	59	27	32	95.2	93.1	97.0	0
	国際言語文化課程	67	5	61	19	42	58	18	40	95.1	94.7	95.2	1
	人間環境課程	63	11	50	28	22	38	21	17	76.0	75.0	77.3	2
	小　計	290	23	261	108	153	214	84	130	82.0	77.8	85.0	6
教育学研究科		28	0	27	16	11	15	9	6	55.6	56.3	54.5	1
合　計		318	23	288	124	164	229	93	136	79.5	75.0	82.9	7

就職情報室から

20年を迎えて

就職情報室は平成９年６月に開室して今年で20年を迎えます。後援会の皆様には運営にかかるご支援をいただき感謝申しあげます。お陰様で開室当初は年間1,400名程度にとどまっていた利用者が平成28年度では5,500名を超えるまでに増え，多くの学生・卒業生に有益な情報・空間を提供できていると感じております。平成27年からは部屋の大きさが約２倍となり参考図書も充実し，さらに利用しやすい環境になりました。

さて，この20年の相談業務で感じていることについて，三つ述べたいと思います。

まず一つは，多くの学生が自分の良さを知らないでいることです。成功体験だけが評価の対象と考え，取り組んだこと・努力したことが記憶として残らず，経験から得たことを伝えられずにいるのです。行動の後に「何を感じたのか，何を得たのか」。失敗談でも反省点でも良いと思います。失敗を生かしその後どう取り組んでいるのか，それが面接などでアピールできるポイントになります。就職活動の前に学生生活における自分の体験をじっくり振り返って欲しいと思います。

二つ目は，進路選択で悩んでいる背景に家族のことを考え決断できないでいるケースが見受けられることです。そんな時，保護者の皆様には「こうしたら…」の前に「どうしたいの…」と尋ねていただきたいと思います。ご子息・ご息女はこれから自分で道を切り開いて行かなければならないからです。

三つ目は近年，「少々の困難にも打ち勝つ心を持った方を採用したい」と話す人事担当者が多くなっていることです。その背景には問題が生じた場合，同僚・上司に相談出来ずに，自分だけで解決しようとする傾向が強いことがあるようです。そうすると結局，問題をこじらせ精神的に追い込まれることになります。困ったときは一人で悩まず誰かに相談することも大切です。必ず道はあるはずです。

「自分の言葉で自分を語れますか」「自分が自治体・企業を志望した理由や目指す教員像を明確に言えますか」今も20年前も変わらず学生の皆さんに語りかけています。

一枚の写真から

旭水会会長　千葉　昭

「写真をいただきました。思いも寄らない卒業祝賀会での娘の晴れ着姿を見ることができて感激しています」というお礼の手紙が届きました。

毎年３月，秋田大学の卒業式終了後に教育文化学部の同窓会「旭水会」主催の卒業祝賀会が，秋田ビューホテルで開催されています。その祝賀会でのスナップ写真を受け取られた親御さんからでした。「娘は，４月から日本人学校の教員として海外へ行っています。メールで送りました。」

実は，私も旭水会員で毎年発行されている同窓会誌『旭水』を楽しみに拝読しています。体育研究室での学生時代を思い出し，今でも心の支えになっています。と書き添えられてありました。

また，ある卒業生からは，「就職して数ヶ月経ちましたが学生生活とのあまりのギャップの大きさに辟易の毎日です。そんな時に，友人と燥（はしゃ）ぎまくった卒業祝賀会の写真を取り出し，みなさんの笑顔に元気をもらっています」というハガキも届きました。

同じキャンパスで友と語り合い，共に学んだ学生時代の思い出は人生にとって忘れ難い貴重な財産として心に刻み付けられているものです。

秋田を離れ慣れない職場や新任地での生活は，不安やストレスも多いと思います。そんな時に同郷や同窓の仲間との出合いは，掛け替えのない親しみや安らぎを覚えるものです。

「旭水会」は，みなさんの応援団です。平成30年には創立130周年を迎えます。同窓会員は，全国各地で活躍しています。みなさんも誇りをもって夢の実現に向けて羽ばたいてください。

教員採用試験に向けた取り組みについて

キャリア委員会副委員長（教職部門）　小池　孝範

全国的に見ると，教員の大量退職の時期ということもあり，全体として教員採用数が増えており，秋田県もここ数年，採用数は一時期より増加しています。とはいえ，秋田県は，全国的に見ても校種を問わず依然狭き門となっています。

そうした中，文部科学省が全国の国立大学法人44大学の教員養成学部（本学の場合は学校教育課程卒業者が対象）を調査し，発表している教員就職率（正規採用＋臨時講師）において，昨年，平成27度（平成28年3月）卒業者は，67.3%と全国平均（58.9%）を大きく上回り，対象となっている東北の4大学（弘前，岩手，宮城教育，秋田）の中ではトップ，全国でも7番目となりました。平成23年度は最下位（44位，41.7%），平成26年度卒業生が31位（58.2%）という結果をふまえると，教員採用試験に向けた取り組みが，ようやく大きな成果をあげつつあるといえます。

教育文化学部では，教師になりたいという志をもった学生を支援するため様々な取り組みを行っていますが，その中心となっているのが，「スタージュ」と「教職自主ゼミ」です。

「スタージュ」は，キャリア委員会が中心となり，学部の先生方に協力をいただきながら実施しています。主に，①秋田県や千葉県等々の教育委員会による教員採用試験説明会，教員採用試験に向けたガイダンス，教員採用試験合格者と語る会等，教員採用試験にかかわる様々な情報提供と教員への意欲喚起，②集団討論及び小論文等の指導，③春と秋に1泊2日のキャンプの開催の三つの内容を中心に支援を行なっています。

「教職自主ゼミ」は，研究家教員と，教育現場での経験豊富な実践家教員で組織される教職キャリア支援室が運営し，①現在の教育現場で話題になっていることや，教員に求められる基本的なことがらについて調査・発表をし，話し合いで深めること，②面接や模擬授業を通して，教員として必要な資質・能力を高めることを目的として実施しています。

これらの支援は，もちろん教員採用試験合格のためではありますが，それだけでなく，教員への意欲を高め，やりがいを見つけられるよう心がけております。

今後も，本学部の教員採用支援の取り組みへの御理解と御協力をお願いいたします。

スタージュ・オータムキャンプ

学部長あいさつ

ダイバーシティ（多様性）

教育文化学部長　武田　篤

教育文化学部には，人文・社会科学から自然科学にまで及ぶ幅広い学問分野にわたる研究者が集っています。その数は，百名を超えます。本学部の強みは，この幅広い様々な専門分野を網羅する「知」の多様性にあります。そして，どの教授陣も学生諸君もこの多様性を尊重し，大切にしています。この多様性を尊重し大切にする姿勢は，これからの時代を生きる学生諸君にとって，とても大きな「力」になると考えます。

多様性が尊重され，大切にされるのは，ある特定の民族や宗教，特定の考えや政治的意見だけが優越するのではなく，各々の存在がその価値を持っているからに他なりません。自分とは違った価値や考えを異質なものとして排除するのではなく，それらを自らの内に取り込むことによって，様々な事態に対し，しなやかに対応していくことのできる，凛とした本当の強さと優しさを手にいれることができます。

そのためには，異なった価値や考えとたえずコミュニケーションをし，互いにその良さを評価しあうことを大切にすることです。今，社会で求められている本当のコミュニケーションの力とは，「立場や世代が違う人を理解し，自分との接点を見つけ，関係をつないでいく力」なのです。知の多様性を尊重する本学の学びのなかでこそ，この力を育み，開花させることができると確信しております。ぜひ，大学での教育にご期待ください。

今後とも教育文化学部へのご理解とご支援を賜りますよう，よろしくお願い申し上げます。

大学・学部関係行事予定（平成29年3月～）

3月 22日	秋田大学卒業式
4月 1日	前期開始
4月 4日	春季休業終了
4月 5日	在学生ガイダンス
4月 6日	入学式
4月 7日	新入生ガイダンス
4月 10日	前期授業開始
6月 1日	創立記念日
8月 11日	夏季休業開始（9月30日（土）まで）
9月 30日	前期終了
10月 1日	後期開始
12月 26日	冬季休業開始（1月8日（月）まで）
2月 22日	春季休業開始（4月3日（火）まで）
3月 22日	卒業式
3月 31日	後期終了

秋田大学教育文化学部 後援会情報誌
ひだまり Vol.8
平成29年3月1日発行
秋田大学教育文化学部
地域連携委員会
〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号
平成22年3月1日創刊
http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman